

企業物価 4月10%上昇

伸び過去最大 資源高・円安響く

企業間で取引されるモノの価格が急上昇している。日本銀行が16日発表した4月の国内企業物価指数（2015年＝100）は、前年同月より10・0%上昇し、比較できる1981年以来、最大の伸びとなつた。仕入れ費用などの急上昇に耐えられず、今後は消費者向けの商品やサービスの値上げに踏み切る企業がさういふ増えそうだ。

▼経済面＝さらに上昇も指數が前年同月を上回るのは14カ月連続。指數自体も113・5で、過去最高となつた。2ケタの伸び率は、単純に比べられないもの、第2次石油危機の影響があった1980年12月の

10・4%上昇以来となる。ロシアのウクライナ侵攻を受け、原油などの資源価格が高騰していることが主な要因だ。石油・石炭製品

や鉄鋼、非鉄金属、電力・都市ガスなどは3割前後も上昇。供給不足が深刻な木材関連は5割超も値上がりしている。

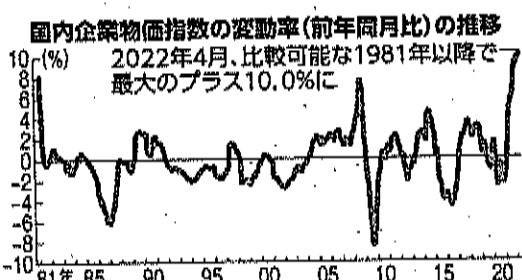
すでに、企業がコストを価格に転嫁する動きも強まっている。消費者物価指数は、3月まで7カ月連続で上がっている。（徳島慎也）

4月に進んだ円安も物価高に拍車をかけている。輸入品の物価指数は、米ドルなど契約通貨建てでは29・7%の上昇だが、円に換算すると、上昇率は44・6%に跳ね上がる。

5/17 朝日

企業物価 さらに上昇も

国際情勢不安 先行き見通せず



企業の間で取引されるモノの価格が、歴史的な高水準で推移している。資源価格を高騰させているロシアのウクライナ侵攻の先行きは見通せず、輸入品の価格は上昇につながる円安傾向も当面続きそうだ。専門家の間では企業物価は今後、さらなる上昇するとの見方もある。

▼2面参照

企業の間で取引されるモノ

の価格が、歴史的な高水

準で推移している。資源価

格を高騰させているロシア

のウクライナ侵攻の先行き

は見通せず、輸入品の価格

は

上昇につながる円安傾向も

当面続きそうだ。専門家の

間では企業物価は今後、さ

らに上昇するとの見方もある。

16日日本銀行が公表し

た4月の国内企業物価指数

は前年同月より10.0%上昇し、過去最大の伸びとな

った。伸び率は、ロシアが

ウクライナに侵攻した2月

が過去2番目、3月が過去

3番目の大きさとなり、異例の

水準が続く。

こうした企業物価の高騰

は今後も続きそうだ。農林

中金総合研究所の南武志氏

は「ロシアによる侵攻は長

期化する様相で、原油や穀

物などの市況が高止まりす

る可能性も高い。今年度半

ばにかけ、さらに上昇圧力

が高まる」とみられる」と指

摘する。

中国での新型コロナの感

染拡大も物価高につながる

可能性が出てきている。中

國当局が都市封鎖(ロック

ダウン)に踏み切り、部

品などが世界的に品薄と

なる懸念が高まっている

ためだ。

企業物価の高騰と相まって

かけている円安傾向も、大

きく変わるものはない。3

月末は1ドル=121円台だ

った対ドルの円相場は、4

月28日には20年ぶりとなる

1ドル=1円台まで下落。企業

がモノを輸入する際の契約

通貨は約7割がドルで、輸

入企業にとって、海外から

の調達コストは直面押し上

げられるそうだ。

こうした仕入れコストの

上昇に耐えきれず、企業の

間では商品を値上げする動

きが相次ぐ。東京都区部の

4月の消費者物価指数(生

鮮食品を除く)は、食料品

の上昇などを受けて、前年

同月より1.9%も上昇し

た。近く公表される全国分

も、景気の下支えを優先す

る姿勢を変えておらず、4

月には、円安につながる長

期金利の抑制策を強化する

と決めた。

16日の参院決算委員会で

も、物価高や急増について

と

だ」と、金融政策を変えな

い姿勢を改めて示した。

日銀が金利を抑え続ける

ほど、利上げを進める米国

との金利差は広がる。今後

も円を売って金利が高い

ドルを買う動きは続くのみ

で、円安や物価高も前面

で

続いている。(徳島慎一)